

第29回 まつやま中学生海外派遣レポート

姉妹・友好都市訪問&異文化体験

(財)松山国際交流協会
まつやま国際交流センター 発行
2011年10月

派遣事業概要

(財)松山国際交流協会では、毎年夏休み中に「まつやま中学生海外派遣」を実施しています。
この派遣は、松山市の姉妹・友好都市での交流や体験学習、ホームステイなど、文化や言葉の違う人達との交流を通して、いろいろな価値観があることを学び、広い視野を持って物事を見ることができ、国際性豊かな人材の育成を目的としています。
今年度からは新たな試みとして、昨年度に「中学生チャレンジプロジェクト」へ登録し、一年を通じて国際交流活動に参加した中学生を対象に派遣生の募集を行いました。その中から選考された46名が、三日間の事前研修の後、アメリカ、ドイツ、韓国へそれぞれ派遣されました。
この派遣を通して学んだこと、心に残ったことなどをレポートにまとめました。

*「中学生チャレンジプロジェクト」の詳細は8ページをご覧ください。

派遣事業全体スケジュール

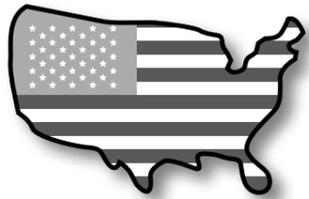
6月19日(日)	派遣説明会 事前研修会①
6月26日(日)	事前研修会②
7月10日(日)	結団式・壮行会 事前研修会③
7月21日(木)	ドイツ班出発
7月24日(日)	韓国班出発
7月26日(火)	アメリカ班出発
7月29日(金)	韓国班帰国
7月31日(日)	ドイツ班帰国
8月2日(火)~7日(日)	平澤市中学生受入(韓国班)
8月5日(金)	アメリカ班帰国
8月中旬	事後研修
8月20日(土)	報告会



ドイツ班

GERMANY

ドイツ班は7月21日から31日までの11日間、フライブルクとオーストリアのインスブルックなどを訪問しました。
フライブルクではドイツサッカー1部リーグの「SCフライブルク」のスタジアム見学やエコ・ステーションでの環境学習などを行い、インスブルックでは旧市街で英語研修、農家体験などを行いました。



アメリカ班

USA

アメリカ班は7月26日から8月5日の11日間、サクラメント・サンフランシスコを訪問。サクラメントでは年に一度開催されるカリフォルニア・ステート・フェアを体験。また、サンフランシスコでは農業体験や環境保護ボランティアも行いました。



韓国班受入

JAPAN

8月2日から7日まで、今度は平澤からの中学生が松山にやって来ました。韓国班のメンバーはそれぞれ、派遣時に交流したパートナーを受け入れました。日本の文化体験や中島での海洋・自然体験など、松山での交流を楽しみました。



韓国班

KOREA

韓国班は7月24日から29日まで平澤を訪問し、「韓中日青少年国際交流キャンプ」に参加。中国・寧波(ニンポー)や秋田県の子どもたちとともに伝統民俗遊びやタイルペイントなどの文化体験、料理作りなどを行いました。





サクラメント市の市旗

もじりの家族

松山市立桑原中学校 遠藤 里奈

ホストファミリーの方々とお別れの時、私は自然と涙があふれてきました。ホストファミリーの方々は本当に仲良くさせてくださいました。ショッピングモールや遊園地などいろいろなところに連れて行ってくださいました。



私がホムステイで一番楽しかったのは、農業体験です。その家では馬を15頭、ヤギを2頭、犬を3匹、猫を4匹飼っていました。農業体験は馬とヤギに餌をあげました。私は動物が好きなので、幸せでした。もう一つ楽しかったことがあります。それは、遊園地です。「DISCOVERY KINGDOM」という遊園地に行きました。アメリカ人の心臓がとっついてくるのだから、と思いました。私は怖すぎて悲鳴も上げられずじまら、だまって乗っているだけでした。「DISCOVERY KINGDOM」は遊園地だけではなく、動物のショーもやっています。私が一番感激したのはShoutaのショーです。Shoutaはシャチです。シャチを私は初めて見たので、感激しすぎてテンションが大変なことになりました。ショーを見たときに塩水があかるところに座ったので、2、3回くらくらしたのですが、帰る時はすごく寒かったです(笑)。

一生の宝物「ホームステイ」

松山市立立久谷中学校 小倉 優里

私が一番楽しかったのは、やはり「ホームステイ」です。ホームステイで3日間お世話になったのはMr. Glen CarsonとMrs. Yuko Carsonです。Carsonさんの家には、3匹の猫がいました。私は猫が苦手だったので人がなついていたので、好きになりました。Yukoさんは絵をかく芸術家でもあり、たくさん猫の絵を描いています。また、お

アメリカの思い出

松山市立内宮中学校 木谷村 穂高

料理を作るのがとても上手な方です。私たちのホームステイ中たくさん料理を作ってくれました。特に好きな料理は、「リンゴとチーズのつたサラダ」と「インドカレー」です。ナンにカレーをつけて食べました。Glenさんは、ボードゲームの達人です。CheckersやBattleshipなどのボードゲームの攻略方やヒントなどを教えてくれてとてもおもしろかったです。2日目、近所の公園へ散歩に行きました。お昼からGlenさんの娘、マリさんのおうちへ行ってお菓子作りをしました。「ピーチパイ」と「チョコチップクッキー」を作りました。出来上がったパイは、みんなで映画を見ながら食べました。3日目には、美術館と、お勤めのビッグアイスを食べに行きました。4日目の朝、Glenさんが送ってくれました。お別れをするのはとても悲しかったけれど、本当に楽しい3日間でした。これからCarsonさんもYukoさんも手紙を交換して、末永く交流していきたくてす!



▲持参した浴衣を着てGLENさんとYUKOさんと一緒に写真を撮りました。

一生の宝物

松山市立城西中学校 小山 賛美

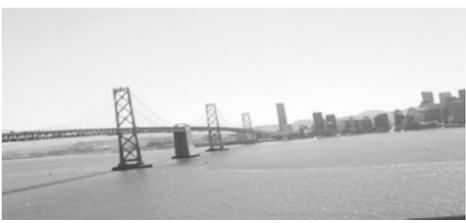
サンフランシスコに着いてまず私が感じたことは、「寒い!!」ということでした。でもそれと同時に私は期待で胸を弾ませていました。私はアメリカで、たくさん一生の宝物を与えられました。それを大きく3つに分けて、紹介したいと思います。

1つ目は「出会い」です。一緒にアメリカへ行った友達や、ホストファミリーとの出会い。特に、ホストマザーのかずよさんにはとてもよくして頂き、帰国した次の日に手紙を送りました。これから交流していきたいなと思います。

2つ目は「夢」です。私はアメリカに行くまで飛行機に乗ったこともなく、東京やアメリカは別世界の感覚でした。でも、実際行ってみるとすごく身近なイメージになりました。今回は、自分の伝えたい事をあまり言葉に出来なかったけど、将来、英語でどんな事でも伝えられるようになって、もう一度、アメリカへ行きたいです。

3つ目は「感謝の心」です。アメリカという違う環境で生活する中で、私は家族や親友の大切さを改めて感じました。中学2年生の夏、こんなに素晴らしい経験をさせてくれたことに、心から感謝します。

私がアメリカに行くと与えられた一生の宝物は、とても大きいものだと思います。これら一生の宝物と共に、いろんなことに挑戦していきたいです。



▲アメリカの海

新しく生まれた大切な家族

済美平成中等教育学校 田中 花奈実

初めての海外。アメリカの国・人・食べ物・建物・催し物の規模など、その大きさに驚き、11日間という日程の全てが刺激的でした。

私は、「ホームステイ」が楽しみでした。「ブルーがあるから水を持ってきて」と、「テレビを見るキューバーティー」を計画中」と、テレビで見るアメリカを感じたいのホムステイ先の事前情報があったからです。韓国系アメリカ人の「BE(ユル)お父さんとロシア人の「Bob(ジョン)お母さん」が受け入れて下さいました。そして、毎日、孫で4歳になる双子の兄妹が遊びに来てくれました。ブルーは広くて、BBQは子供たち家族が集まって、心からの温かいお話を聞かせて頂きました。お風呂を手伝ったり、近くの大きなスーパーで買い物したり、アメリカの日常をワクワク・ドキドキしながら体験することができました。

私は、短時間で簡単にできる「五色ぞうめん」を、家族みんなに食べてもらいました。「簡単に作れておいしいね」と、みんなが笑顔で言ってくれたのでうれしかったです。残った「ぞうめんつゆ」は棚に飾って頂きました。私の大切な新しい家族ができた喜びでいっぱいです。

派遣事業に参加させて頂き、ホームステイなどの国際交流や、一緒に派遣された仲間を通して、「協力し合う」「助け合う」「理解し合う」ことの大切さを肌で感じる事ができました。この経験を生かして、これからの生活に繋がります。本当にありがとうございます。



自分が知っている単語とジェスチャーでコミュニケーションを図ったが、伝わらないことが多かった。僕は、もともと英語を話せるようになって、再びアメリカの地を踏みたい。

すつききな出会い

愛媛大学教育学部附属中学校 竹本 海帆

長かったようであつたという間違った11日間。この11日間は、私にとってかけがえのない日々でした。研修の中で一番心に残っているのは、ホームステイです。私は、英語があまり得意ではないのでドキドキと不安でいっぱいでしたが、いざとなればそれがワクワクと楽しみに変わっていたような気がします。

Welcome Partyで初めて出会ったRheeさん夫妻、奥さんと英語での会話で、私はいつもハチャメチャな英語だったと思います。(もともと、英語を勉強してくるんだと少し後悔...)しかし、話を通じたときはものすごくうれしかったです。

ホームステイ1日目は、近所にあるMATSUYAMA小学校や、ビッグスーパーに連れて行ってもらいました。スーパーは、本当に大きくて、店内の高い商品棚にぎっしり積まれた缶詰を見て、日本との違いに驚き、大はしゃぎしました。とにかく種類や量の多さにはビックリ仰天!

2日目は、娘さん家族と一緒に集まって、BBQをしたり、家のプールで泳いだり、ショッピングに行ったり...Rheeさん夫妻は、いつも私たちを気遣ってくれました。私が、この研修で楽しんでいるホムステイは、最高で、とても充実し、一生の思い出です!!

また、他の様々な研修も楽しめて、すべて自分のプラスになり大きな経験となりました。このような素晴らしい機会を与えてくださった、海外派遣でお世話になった方々に感謝します。また、この経験を人生の財産として、これからの生活に生かしていきたいです。

アメリカから帰って次の日から部活動の四国大会、また全国大会と続き、忙しい夏ですが、おそろく人生で一番充実した夏だと思えます。



▲お世話になったRheeさん夫妻

品棚にぎっしり積まれた缶詰を見て、日本との違いに驚き、大はしゃぎしました。とにかく種類や量の多さにはビックリ仰天!

2日目は、娘さん家族と一緒に集まって、BBQをしたり、家のプールで泳いだり、ショッピングに行ったり...Rheeさん夫妻は、いつも私たちを気遣ってくれました。私が、この研修で楽しんでいるホムステイは、最高で、とても充実し、一生の思い出です!!

また、他の様々な研修も楽しめて、すべて自分のプラスになり大きな経験となりました。このような素晴らしい機会を与えてくださった、海外派遣でお世話になった方々に感謝します。また、この経験を人生の財産として、これからの生活に生かしていきたいです。

アメリカから帰って次の日から部活動の四国大会、また全国大会と続き、忙しい夏ですが、おそろく人生で一番充実した夏だと思えます。

ありがとうアメリカ

松山市立内宮中学校 辻岡 幸一郎

僕はアメリカに行き感じた事が三つあります。

一つ目は、アメリカに住んでいる人は優しいということです。派遣生である僕達に、とにかく気を配ってくれます。分からぬ事があっても親切に教えてくれて、安心して過ごす事が出来ました。中でも一番楽しかったのは、ホストファミリーです。僕が家に電話をかけた時、時差もあって夜遅くまでかかりました。「Sorry」と謝ると「Don't worry」と笑顔で言ってく聞き返して「Don't worry」と笑顔で言ってく



国際交流や、一緒に派遣された仲間を通して、「協力し合う」「助け合う」「理解し合う」ことの大切さを肌で感じる事ができました。この経験を生かして、これからの生活に繋がります。本当にありがとうございます。

アメリカでの体験

愛媛大学教育学部附属中学校 中尾 有沙

私にとってアメリカで過ごした一日一日が驚きの連続でした。そして、すべての事に感動した日々の中でも、特に心に残っていることはホームステイです。

初日は、家の庭と猫三匹の紹介をしていただきました。庭によく鹿やタヌキがやってくるんだとグレンさんに言われたときは、私の家では信じられないなと思いました。

二日目は、午前中に近所の国立公園へ行きました。そこでは、野生の七面鳥や鹿などを見ました。午後からは娘さんであるマリさんのお宅へ行き、ピーチパイとクッキーと一緒に作りました。私は桃の皮をむく係だったのですが、自分たちで作ったお菓子は格別でした。

三日目は、クロッカーアート美術館へ行きました。様々な年代・国の作品が展示されており、とてもおもしろかったです。それから、アイスを食べに「ウェザービー」というお店に行きました。このお店のアイスは、まるで山のように盛りだくさんで、半分も食べないうちに満腹になりました。帰



僕は、アメリカでの生活を体験して、一回りも二回りも心が成長したように思います。この海外派遣で、一番好きな国がアメリカになりました。ほんの一部しか知りませんが、アメリカが好きです。特に人柄と町並み、文化が好きです。この事を踏まえて、日頃の私生活や学校生活に生かしていきたいです。将来は海外派遣で学んだことを生かせる仕事につきたいです。こんな貴重な体験をさせてくれた父さん、母さん、国際交流センターの皆さん、先生方、協力してくれた皆さん本当にありがとうございます。



▲ウェザービーのアイス

帰る時は、悲しかったですが自分の一杯の感謝の気持ちを伝えました。今回の海外派遣では、英語でできるだけでなく、様々な人とコミュニケーションをとれるように、様々なことに挑戦しました。私のように中学生でこのような貴重な体験ができた人は少ないと思います。この経験をこれから人生に役立てていきたいです。そして、今回の派遣を支えてくださった全ての方々に感謝します。

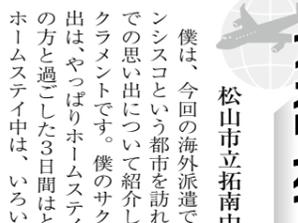
アメリカの思い出

松山市立立南中学校 中川 雄登

僕は、今回の海外派遣でサクラメントとサンフランシスコという都市を訪れました。その二つの都市での思い出について紹介したいと思います。まずサクラメントです。僕のサクラメントでの一番の思い出は、やっぱりホームステイです。ホムステイの方と過ごした3日間はとても貴重なものでした。ホームステイ中は、いろいろな所へ連れていかれました。ボウリング、プール、ショッピングセンターなどに行きました。しかし、一番印象に残っているのは「Brewery」というジェリービーンスの工場に行ったことです。ジェリービーンスは食べたことがなかったのですが、食べてみるとおいしかったです。この写真もその工場で撮ったものです。

次にサンフランシスコです。サンフランシスコで一番の思い出は、メジャーリーグ観戦です。ジャイアンツVSダイヤモンドバックスでした。メジャーリーグの試合は、魅了されてしまいました。試合は、ジャイアンツが8-1で勝ち、とてもいい試合でした。

今回のアメリカでの経験を、今後の生活の中で発揮できたいと思います。



僕は今回の派遣でたくさん経験ができました。その中で一番印象的だったのは、やはりホームステイです。WELCOME PARTYの時や、ホームステイの初日は、まだまだ緊張して自分から話しかけることができませんでした。そんな時、一番上のLindsayが優しく声をかけてくれました。話しているうちにすべては理解できなくなりましたが、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

2日目は、みんなでBowlingやShoppingをして、夕方からはLindsayのバスケットボールチームの仲間たちとプールでPartyをしました。その頃にはずいぶん打ち解けて、ジェスチャーを交えながら、片言ながらも話せるようになりました。

3日目は、Jelly Belly Factoryへ連れていかれました。アメリカらしいカラフルな工場にとても興奮しました。

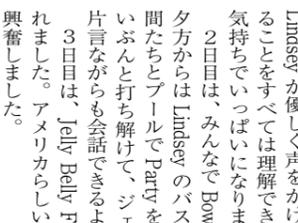
「I can do it!」

松山市立東中学校 野田 智幹

僕は今回の派遣でたくさん経験ができました。その中で一番印象的だったのは、やはりホームステイです。WELCOME PARTYの時や、ホームステイの初日は、まだまだ緊張して自分から話しかけることができませんでした。そんな時、一番上のLindsayが優しく声をかけてくれました。話しているうちにすべては理解できなくなりましたが、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

2日目は、みんなでBowlingやShoppingをして、夕方からはLindsayのバスケットボールチームの仲間たちとプールでPartyをしました。その頃にはずいぶん打ち解けて、ジェスチャーを交えながら、片言ながらも話せるようになりました。

3日目は、Jelly Belly Factoryへ連れていかれました。アメリカらしいカラフルな工場にとても興奮しました。



僕は今回の派遣でたくさん経験ができました。その中で一番印象的だったのは、やはりホームステイです。WELCOME PARTYの時や、ホームステイの初日は、まだまだ緊張して自分から話しかけることができませんでした。そんな時、一番上のLindsayが優しく声をかけてくれました。話しているうちにすべては理解できなくなりましたが、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

2日目は、みんなでBowlingやShoppingをして、夕方からはLindsayのバスケットボールチームの仲間たちとプールでPartyをしました。その頃にはずいぶん打ち解けて、ジェスチャーを交えながら、片言ながらも話せるようになりました。

3日目は、Jelly Belly Factoryへ連れていかれました。アメリカらしいカラフルな工場にとても興奮しました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、別れの時がきてしまいました。何もできなかった僕に、優しくしてくれた Masaba Family に感謝しつつ、またいつか再会できることを願って、そして日本に帰ってからメールで交流を続けることを約束しました。



次に思い深い出来事は、メジャーリーグ観戦です。ジャイアンツとマイアミ・ミズメックスの試合を写真に納めようと、マイアミの近くに入ったところ、偶然にもファールボールが飛んできました。手を伸ばしたものの取ることができませんでした。すると隣にいた人が「この子にあげなよ」と、アピールしてくれ、ボールをゲットすることができました。僕はとてもうれしく「Thank you!」と言った。ハイタッチをしてくれました。近くにいた人もハイタッチしてくれました。気持ちが伝わった瞬間、最高に嬉しかったです。また、アメリカ人の friendly さに感動しました。

11日間の宝物

済美平成中等教育学校 延川 耶帆

9時間のフライトは楽しみにしていた分、長く感じられました。空港を出て乾燥した冷たい空気を感じた瞬間、サンフランシスコに来たという実感が湧きました。何もかも新鮮で、窓の外を見ているだけで楽しかったです。

ホームステイはこの研修のなかでも特に心に残っています。私のホストファミリーは7人の大家族で、とてもにぎやかでした。Matte という女の子と Andrew という男の子もいて、いろいろなお話をしながら、仲良くなりました。ショッピングやプールも楽しかったです。地元の人たちが行くようなヨーグルのショップや公園に行けたことが嬉しかったです。ヨーグルソフトはとっておいて、食べるのが遅い私でもすぐに食べることができました。朝食に出たワッフルには、イチゴや生クリームがたっぷりついていて最初は驚いたけれど、これもおいしくおかわりしてしまいました。他にも天ぷら寿司や味の濃いビーフジャッキーなど、アメリカの食べ物、日本から見るとびっくりするものも多かったけれど、今となってはすべて私の大好きなものの一つです。ホームステイは英語での会話で、自分の思っていることが伝わるかどうか不安でした。けれどホストファミリーが熱心に私の話を聞いてくれたおかげで、私も頑張ってジェスチャーや簡単な言葉を使って伝えることができました。ホームステイでしか学べないようなことがいくつもありました。すべてが宝物です。私はこの研修を通して、多くのことを学びました。もっと英語を話せるようになりたいです。またこの経験をこれから先、私の財産にならなくとも思っています。私を成長させてくれた Matte、Andrew、ホストファミリー、そして両親や先生方に感謝します。



★大切な経験★

済美平成中等教育学校 平松 萌

私が、今回のアメリカへの派遣で一番心に残っているのは、ホームステイです。私が一緒に過ごしたホストファミリーはみんなとても優しく、温かく私を迎えてくれました。今回のホームステイは私の中で大切な経験になったと思います。

ショッピングへ出かけたり、プールへ行ったりしました。私たちが訪れたショッピングモールはとて大きく、その大きさに驚きました。買い物や英語するのも良い経験になったと思います。他にも、美味しいハンバーガー屋さんや友達と一緒に行きました。アメリカのスイーツを食べさせてくれたりしました。また、そのホストファミリーの家では、特別な日にチョコレートケーキを食べるそのうなのですが、その日は「Is a special day」と言っていました。大きなチョコレートケーキを用意してくれました。その言葉聞いた時、私はとても嬉しく幸せな気持ちでした。



私のホストファミリーは、日本語がほとんど話せませんでした。一緒に生活する中で私は、日本で英語を話すとは全く違う、と感じました。発音がネイティブなせいか、聞き取りにくかったです。今回、このホストファミリーと過ごしたことで、もっと英語力を上げた！と、現地で話すように努力しました。そして、現地でも話すようになったらいいな！と思うようになりました。将来、アメリカをもう一度訪れて、その時には完璧な英語を話せるようになっていたいです。温かく迎えてくれたホストファミリーに感謝しています。

アメリカ派遣の思い出

松山市立東中学校 葉師寺 快和

僕は、今回のアメリカ派遣で沢山の思い出がありました。まずサンフランシスコに到着して驚いたのは、夏にもかかわらずホッカイロが欲しくなるほど寒かった事です。最初に行ったピア39は海が見えるきれいな場所です。たくさんの店が並んでいました。そこで食べたクラムチャウダーとシーフードスパゲティはクリミーでもおいしかったです。あと、メジャーリーグ観戦も最高でした。日本よりも応援がにぎやかで、応援している側のチームの選手が打つと観客が総立ちになりました。「ワァー！」という声援が返り響きわたりました。気が付くと自然に僕も一緒に叫んでいました。アメリカ流の応援をしていました。とても楽しかったです。サクラメントは暑い町でしたが、日本のようなジットリとした湿度がなかったので過ごしやすかったです。サクラメントの思い出は、もちろんホームス



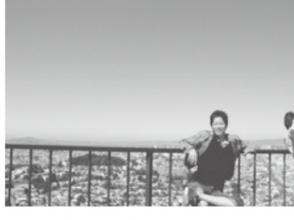
テイです。ホストファミリーの方は、ユーモアあふれる陽気な人ばかりで、あっという間に3日間が過ぎてしまいました。子供20人、大人20人と呼ぶのでホームパーティーは圧巻でした！楽しい事ばかりだったアメリカ派遣。僕にとっての一生の宝物になりました。

アメリカ派遣体験記

済美平成中等教育学校 山口 圭太

着いた瞬間、全てが違うと体を感じ取った。アメリカに行くまでは「日本とは言語や食文化が違うだけだ」と決めていた。出発の前夜もそんな軽い気持ちでいたから、ぐっすり眠ってしまった。着いてまず思ったのは「匂い」が違うということだった。その国の匂いは、その食文化や生活様式、街の作りなどから来たものだと思う。つまり、日本とは何もかも違っていたということである。正直驚いた。アメリカについていられなくてわくわくすると思っていたのに、その時、自分の中では不安がまさっていた。

部屋の中に土足で入ることをはじめ、最初は大きな文化の違いに戸惑った。ホームステイの家では、最初靴を脱いで笑われてしまった。しかし慣れてみると、とても快適なものだった。なんだか「自由の国」と呼ばれる理由がわかった気がした。一番大きな違いは、人間であった。この旅で一番多く使った言葉は、thank you と excuse me。これにも驚いた。おそらく一日で50回は使ったと思う。しかし、自分が意識して使っていたのではない。現地の人に馴染もうと、真似をしていたら自然とそうなったのだ。本当にいい人ばかりだった。人とすれ違えば必ず笑顔で挨拶してくれたり、日本人ですか？と話しかけてくれる人までいた。様々な文化の違いに驚いたこの旅は、本当に素晴らしい体験だった。これを期に自分も国際人になりたいと感じた。このような機会を与えてくれた全ての人に感謝したい。本当にありがとうございました！



▲サンフランシスコを一望できる丘の頂上にて。

外国と日本の違い

松山市立拓南中学校 山本 和奏

私はこの松山中学生海外派遣研修が生まれて初めての海外でした。初めての海外で一番楽しかったことはやはりホームステイです。言葉も通じず、自分の発音している単語や英文も相手に通じているかわからない状況になってしまっているのではないかと、ホームステイ前日まで思っていました。でも、実際に会ってみると言葉などは必要ないということがわかりました。

Welcome party のときはおばあちゃんとお母さん、マザーのシェリルさんと9歳のアリスちゃんとお兄ちゃん、12歳のジャスティン君が来てくれました。初めて会ったとき、アリスちゃんがいきなり抱きついてきたことが印象的で、まだはつきり覚えて

最高の思い出！アメリカ！！

松山市立道後中学校 芳野 陽香

とうとう、アメリカにやってきました。サンフランシスコは、思っていた以上の寒さでびっくりしましたが、今日からアメリカ派遣のスタートです。11日間の研修で特に心に残っていることは、ホームステイです。ホームステイの時は、ホストファミリーの人は、用事があって帰ってしまえば、あまり話さず帰ってしまっても「金曜日に迎えに行く」と言われて、早く金曜日になってほしいと思っていました。そして、とうとう楽しみにしていた金曜日。おばあちゃん達が迎えに来てくれて、家に向かいまして。家は、10部屋もある大きな家でびっくりしました。さすが、アメリカかと思いました。ファミリーは、おばあちゃん、お父さん、お母さん、12歳のJustin、9歳の Allison の5人家族です。

私は、あまり英語を話すことが得意ではないので、3日間大丈夫かな？と不安でしたが、みんな、ゆっくり分かりやすく話してくれて、コミュニケーションがとれました。ホストファミリーには、ショッピング、Bel's、Fido や、いとこの家でのパーティーなどに連れて行ってもらいました。また、Justin と Allison に日本語を教えたり、お土産で持って行った、だるまおとしで遊んだり、とても盛り上がりました。楽しかった3日間は、あっという間に過ぎてしまいました。お別れの時は、みんなで何回もハグをして、別れを惜しまないで。



ファミリーとはたくさん話が出来たけど、もっとうまく会話出来るレベルになりたいと、今回のアメリカ派遣を通して強く思いました。また、日本では体験が出来ない事をたくさん経験でき、本当に楽しかったです。アメリカ派遣に参加させてもらったことに感謝します。ありがとうございました。

アメリカ班 引率の先生方

「Thank you」の素晴らしい

団長 松山市立北中学校 校長 白濁 康隆

まつやま中学生海外派遣「アメリカ班」は7月26日から11日間の活動を行った。アメリカという国は、土地は広大、体格も大きく、食べ物も大きい。人種も様々、服装も様々、小さな事はあまり気にしない。全てがおおらかという感じであった。しかし、街や店内で人の前を横切るときは「sorry」、そして道を譲られたら「Thank you」。エレベーターに乗るときは女性に「please」。行く階の番号を押さずに自然に出てくるアメリカ人の細やかさ、相手を思いやる心や礼儀、気持ちの良さには驚いた。また、それに加え、松山サクラメント姉妹都市協会の人たちの気配りやボランティア精神の深さには本当に感謝している。生徒たちは、ホームステイでさらに人の心に触れ、その心遣いや言葉、活動の一つ一つに感謝の気持ちをもったものと思う。今回の海外派遣を通じて、生徒たちは、積極的に行動することの大切さや、時間・マナーを守ることで、自分の持ち物を管理すること等を身をもって感じ取ったと思う。そして、それらをこれからの生活にも生かしていくことができることを確信している。

今回の派遣が無事故で大きな成果を挙げて終了できたことに対し、今回の海外派遣に関わっていた全体的な方々に深く感謝したい。

次世代を担う国際人へ

松山市立椿中学校 教諭 河原 英司

私は今回の研修で、二十数年ぶりにアメリカの土地を踏みました。広大な土地、人々の自由な雰囲気、様々な人種、民族が共存する社会など、全てが以前と変わらないように感じました。そんな中、アメリカの農場体験、海岸でのボランティア活動、大リーグ観戦など、今まで経験できなかったことを経験させていただきました。特に、臨場感のあるスタジアムでプレーする大

海外派遣を終えて

松山市立道後中学校 教諭 中川 美保

「英語の先生になりたい」中学生2年生の夏、サンフランシスコでホームステイをした後に抱いた夢です。まさか、夢を叶えてもう一度アメリカへ行けるなんて思ってもいませんでした。今回の研修で1番印象に残ったことは、アメリカで暮らす人たちは普段の生活の中で、たくさん人とコミュニケーションを取っていること。例えば、スーパーマーケットのレジで精算をする時に、必ず「How are you?」とたずねられ、会話をしました。日常生活の至る所に会話が生まれ、そこから人々が繋がっているように感じました。

また、アメリカに出ると日本の良さも実感できました。Welcome party でホストファミリーの1人が浴衣を着ていた姿を見た時、日本には古くから伝わるものがたくさんあることを再発見しました。きっとホストファミリーの人たちにとっても、生徒との体験を通して文化の違いを感じただけでなく、日本のこともっと知ってほしいと感じました。11日間の中で、ホストファミリーと別れる時の一人一人の表情は昔の自分を見ているようになり、深く印象に残りました。出発前からお世話になった方々、現地でお世話していただいた協会やホストファミリーの方々があったからこそ、私たちは素晴らしい思い出ができました。ありがとうございました。



▲ Welcome Party でいただいたケーキ。ホストファミリーや協会の方々があったからだと思います。



フライブルク市の市章

最高のホームステイが終わって

松山市立桑原中学校 朝日 響賀

私が、14年の生涯の中で、初めて体験したわくわくドキドキ・ドイツでのホームステイ。この最高の11日間の中で、唯一の心配ごとだったのが、見知らぬ外国人との「コミュニケーション」。



▲ホストファミリーとの交流

日本に帰ってからも、ファミリーやネレとはインターネット・Eメールで連絡を取り合っています。ネレとはなんと日本語で・・・。今度はネレを日本に招待し、松山の街を案内したいです。また、私も英

異国の地の十日間

愛光中学校 伊野木 佑斗

私は今回の約10日間の海外派遣を通じて数多のことを学んだ。そして、異国の地にて日本との差異を強く感じた。

二つ目に、ドイツでの生活において強く感じたことは日曜日の存在である。ドイツでは法律によって原則日曜日の店の営業は禁止とされている。これは、家族と共に家でゆっくり過ごすことを目的として定められている。ホストファミリーと家族の一員同様に、一日のんびりと会話しながら、日本とは異なる時間の流れを感じ、日本にはない「日曜日」を感じることができた。



▲ファミリーとの楽しい一日

き、誰もいなかったので、緊張感がわきませんでした。けれど、みんなのホストファミリーが次々と迎えて来た時、緊張してお腹が痛くなったことは、今ではいい思い出です。私の

『出会えて、良かった!!』

松山市立城西中学校 今井 来亜

11日間の海外派遣は、あっという間に過ぎてしまいました。一日一日がとても充実し、貴重な時間となりました。その中でも一番の思い出はホームステイです。ホストファミリーとの集合場所に着いたとき、誰もいなかったで、緊張感がわきませんでした。けれど、みんなのホストファミリーが次々と迎えて来た時、緊張してお腹が痛くなったことは、今ではいい思い出です。私の

大好き♡フライブルク

愛媛県立松山西中等教育学校 奥野 佳奈枝

ついにフライブルク到着！ホームステイが始まります。とても楽しみにしていた私ですが、やはり少し不安になってきました。そんな中、パートナーとの初対面です。名前はアレクサンドラといって年は一つ上です。ホストファミリーはとても明るく親切で、私はせつ々のいい機会を無駄にしないために「オウー」とか「エイー」などオーバーリアクション&ハイテンションで頑張りました(笑)。ホームステイは私の想像とは違っていました。日本と同じように玄関で靴を脱いだり(靴をはいて生活するとは思ってました)、毎晩シャワーを浴びた事(シャワーは朝浴びるものだと思っていました)。でも、私以外の人は毎日シャワーを浴びていなかった事、朝ご飯の時にTVを見ないで、音楽を聴きながら食べた事、週末はみんな起きるのが遅かった事、などなど日本の生活と同じだったり違ったりした所がありました。週末はホストファミリーとその友達の家と一緒に折り紙をしたり、ドイツのゲームをしたり、公園に行って自然に触れられたりしました。さらにみんな仲良くなったので良かったです。最終日にはみんなにひやむぎをこそうしました。ホストファミリーはお着にも初挑戦です！みんな髪を落とさながらも頑張って髪を使っている、とても盛り上がりました。最初のとても不安だった気持ちも、最後は嘘のように無くなり、本当にかけがえのない時間を過ごすことができました。こんな私をあたたかく迎えてくれたホストファミリー、その友達の家、そして添乗員さん、関係者の方々に感謝です。今回の体験は一生の宝物です。そしてこれから活動にも生かしていきたいです！ドイツ最高！ ☆Dankeschön☆



▲ヘレナと一緒に街角で

から生活に活かして行きたいと思えます。

私のフライブルク

松山市立桑原中学校 金井 由季乃

私たちドイツ班は、ドイツのアウトスブルクとフライブルク、オーストリアのインスブルクの3都市に行ってきました。私が今回の派遣を通じて学んだ一番の事、それは、言葉が通じなくてもちゃんと「分かるある」という事です。

私は、ホームステイで2つのお宅にお世話になりました。まず最初にお世話になったのは、「ニクラス・ヘツァー」君のお宅です。彼の家に泊まったのは1泊だけでしたが、色々な所を案内してくれたり、彼のお姉さんが働いているパン屋に行ったりと、とても楽しかったです。次にお世話になったのは、メリッサ・トウミナローちゃんのお宅です。フライブルクの街で、彼女と一緒に買い物したり、大聖堂の前で開かれる市場を見たりしました。日曜日には、彼女と彼女の弟、お母さんと一緒にボウリングをした後、「黒い森」に行きました。黒い森はすごく寒かったけど、その湖はとても美しく、ニクラスもメリッ

楽しかったホームステイ

松山市立南第二中学校 小椋 響子

最初、私はドイツへ行く事が楽しみではなかったけど、不安が少し和らいだ気がしました。

思う所の十日間

松山東雲中学校 久保 茉莉花

ドイツで過ごした十日間はあっという間で、私に多くの素晴らしい思い出を残してくれました。中でも一番心に残ったのはホームステイです。ホームステイ初日、パートナーの家へ向かう車中で、初めて英語で会話をしました。大変緊張しましたが、時間が経つにつれて緊張もほぐれ、打ち解けることができました。また、プリンクマン家のみなさんは、とても明るく優しい人達で、私のために日本語の単語帳を買ってくれたり、「Dankeschön」や「Guten Morgen」などの言葉を教えてくれたり、私も「いただきます」や「ありがとう」などの言葉を覚えてあげました。休日にはジョッキングに行き、おすそめのおみやげを食べてもらったり、買ってくれたりしました。その中でもパートナーのキムが買ってくれた、「Germany」と書いてあるクマのストラップが一番のお気に入りです。また、夜には日本とドイツの雑誌を見比べたり、キムのパソコンを使って、アイドルや女優をそれぞれ紹介していました。そしてお別れの日、お別れするのは寂しかったけどキムが、「次は、私が日本に行くから!!」と笑顔で言ってくれたので、寂しさもやわらぎました。私はこのホームステイで、文化や言語は違っても、心は通じ合うんだと改めて感じました。この十日間の思い出は、私の一生の宝物です。最後に、この海外派遣でお世話になった先生方・派遣親・そして私の第二の家族、プリンクマン家のみなさんに心から感謝します。 Danke!



▲アルプスの農家体験の時にとった写真。交流した地元の子達と。

ダンケゲシエン!

松山市立桑原中学校 篠崎 恵

今回の海外派遣では、ドイツの人たちの心の温かさをもっと感じる事ができました。フライブルクのホームステイ先では、キアラという18歳の子が私のホストシスターでした。歳も離れていて身長も大きくなって、18歳だけでも大人の人間みです。最初は「話が合うかな・・・」と、とても心配でした。でもキアラは、英語が下手な私にもわかるようにとてゆっくり話してくれたり、「You like it?」と聞いてくれたり、休みの日にはお祭りに連れて行ってくれたりしました。お祭りというのは、カウポインという町の、テンツェルフェストという、民族衣装でパレードを行う祭りでした。日本では絶対に見られない壮大なお祭りで、「ヨーロッパに来たんだな」と特に実感しました。私が楽しそうにお祭りを見ていると、キアラも喜んでくれました。家では一緒にビデオを見たりしました。私のために、英語の字幕のビデオを持ってきてくれました。英語のビデオでも、ドイツ人は普通に見れるんだなと思えました。日本人は、英語の吹き替えや字幕になってる映画なんて、そんなに見ませんよね。今思えばホームステイ生活もあっという間で、別れの日がすぐ来てしまいました。もう少し長くキアラの家にいたかったです。最後は「ダンケゲシエン」と何度も言ってお別れしました。



▲ドイツに行つて、何度も数え切れないほど「ダンケゲシエン」を言いました。日本人相手でも思わず言ってしまうほどでした。ドイツの

挑戦の連続

済美平成中等教育学校 古賀 葉奈子

私はこの海外派遣で初めて海外に行きました。伝えることの大切さをよく学べたと思います。

まずはホームステイです。周りに日本人がいないので自分の意思は全てジェスチャーや英語で伝えなければなりません。私は最初、全然伝えられず、ただ黙っているだけで、でもパートナーのレベッカが一生懸命話しかけてくれたり、お母さんが色々な所に連れて行ってくれて、交流していく内にだんだん「私は何がしたいのか」ということを伝えられるようになりました。それからは、ホームステイを思いっきり楽しむことができました。レベッカの友達との誕生日パーティーに行ったり、街に二人で買い物に行ったり、とても仲良く出来ました。これは派遣されて、日本語が使えないという環境に置かれてこそ、挑戦できたことだと思います。次に、インスブルク市の観光局の方への英語のあいさつです。これはドイツ班を代表してのスピーチだったのでとても緊張しましたが、きちんと私の英語が伝わったか不安ではなかったのを覚えています。そして様々な派遣中のプログラムを通して友達も増えました。アルプスでの農家訪問で一緒にジャムを作ったり、フライブルクの学校に行ったり、たくさんのお会いがありました。国は違っても、とても楽しい時間を過ごすことができました。今「また会いたい」と思えることは、以前の自分と比べるとすごいことです。そして一緒に過ごした派遣生とも、更に仲良くなれてとても良かったです。

松山市立鴨川中学校 安倍 志奈

私は11人の仲間と共に韓国へ行き、色々な体験をして無事日本に帰って来る事が出来ました。

久しぶりに松山でパートナーと再会し、会えた喜びとまた別れなくてはならないという不安が入り混じる中、浴衣の着付け体験やボウリング、料理作り体験、中島等色々なプログラムを行いました。

私も平澤でパートナーの家にホームステイさせて頂いた時、あまり韓国の生活や文化に触れることが出来なかったため、パートナーには沢山日本の文化を伝えようと頑張りました。



▲日本にて太鼓の連打

みんなでホームパーティー

松山市立道後中学校 岡 あづさ

私の韓国への派遣が決まった時、卓球部のみんなはとても喜んでくれました。そして、松山で受け入れがある。と話したら、私たちが交流したい。と言ってくれたので、8月6日、7日のホームステイで、私は卓球部のみんなも誘ってホームパーティーをしました。

最初は卓球部のみんなから、私のパートナーのミンジさんに英語で挨拶をしました。片言の英語で上手くは出来ませんが、ミンジさんは解ってくれました。

楽しかったホームステイ

松山市立南中学校 直野 桜

韓国でのホームステイ体験を終え、松山に帰ってから4日後、その日はやってきました。パートナーのチェウが、松山でのホームステイにやってきました。



▲流しそうめんを楽しんでいる様子

We love 韓国 We love 松山

松山市立鴨川中学校 田房 友菜

平澤でのキャンプでたくさんの方と交流し、パートナーと私の間にも「絆」が生まれました。そして受け入れでは、パートナーや、周りの友達と派遣の時より「絆」が深まりました。

私が受け入れで一番に残っていることは、ホームステイの朝、パートナーの「ジンリユル」と自転車でパンを買いにいったことです。

私はこのように体験をして、韓国と日本は似ているけど、ちがいもあることがわかりました。これから、語学を勉強し、韓国のことをもっと知り、国際人になりたいです！

国を越えて文化を通じて、友達の和を深めよう

松山市立余土中学校 森 義晴

今回、派遣に参加できたことは、ほくにとって人生の大きな経験のひとつになりました。

松山での受け入れでは、パートナーをはじめ12人のメンバーと日本文化に触れることができました。

今回のホームステイでは、言葉は通じなくても、実際に体験することによって、お互いの文化や風習を理解できる事がよくわかりました。



▲花火

みんな友達

松山市立南中学校 楢垣 佑奈

松山での受け入れで一番私の心に残っているのは、みんなで中島に行ったことです。

私も嬉しかったので、スイカ割り、みんな大きい声で指示を出して、とても盛り上がりました。

国を越えて文化を通じて、友達の和を深めよう

松山市立余土中学校 森 義晴

今回、派遣に参加できたことは、ほくにとって人生の大きな経験のひとつになりました。

松山での受け入れでは、パートナーをはじめ12人のメンバーと日本文化に触れることができました。

今回のホームステイでは、言葉は通じなくても、実際に体験することによって、お互いの文化や風習を理解できる事がよくわかりました。

私が受け入れで一番に残っていることは、ホームステイの朝、パートナーの「ジンリユル」と自転車でパンを買いにいったことです。

私はこのように体験をして、韓国と日本は似ているけど、ちがいもあることがわかりました。これから、語学を勉強し、韓国のことをもっと知り、国際人になりたいです！

韓国班 引率の先生方

松山市立道南中学校 校長 栗林 安廣

私たちが韓国班は五泊六日という短い期間ではありますが、内容の充実した、貴重な体験学習を行うことができました。

松山からの派遣生12名は、最初は各国の高校生に圧倒されていましたが、徐々にその雰囲気慣れ、のびのびと活動することができました。

今回の韓国(平澤市)海外派遣事業に参加させていただいて感じたことは、韓国のボランティア大学生の計画性・行動力・指導力の優秀さです。



松山市立北中学校 教諭 夏井 昭則

今回の韓国(平澤市)海外派遣事業に参加させていただいて感じたことは、韓国のボランティア大学生の計画性・行動力・指導力の優秀さです。

初めの海外、そして韓国の教育力。松山市立道南中学校 教諭 井上 哲男

まっやま中学生海外派遣事業(韓国班)を終えて

松山市立北中学校 教諭 夏井 昭則

今回の韓国(平澤市)海外派遣事業に参加させていただいて感じたことは、韓国のボランティア大学生の計画性・行動力・指導力の優秀さです。

今回の韓国(平澤市)海外派遣事業に参加させていただいて感じたことは、韓国のボランティア大学生の計画性・行動力・指導力の優秀さです。

今回の韓国(平澤市)海外派遣事業に参加させていただいて感じたことは、韓国のボランティア大学生の計画性・行動力・指導力の優秀さです。

今回の韓国(平澤市)海外派遣事業に参加させていただいて感じたことは、韓国のボランティア大学生の計画性・行動力・指導力の優秀さです。

今回の韓国(平澤市)海外派遣事業に参加させていただいて感じたことは、韓国のボランティア大学生の計画性・行動力・指導力の優秀さです。

今回の韓国(平澤市)海外派遣事業に参加させていただいて感じたことは、韓国のボランティア大学生の計画性・行動力・指導力の優秀さです。



中学生チャレンジプロジェクト

アメリカ、ドイツ、韓国の姉妹・友好都市に派遣生として行きたくなった皆さんは
→中学生チャレンジプロジェクトに登録をしよう!!

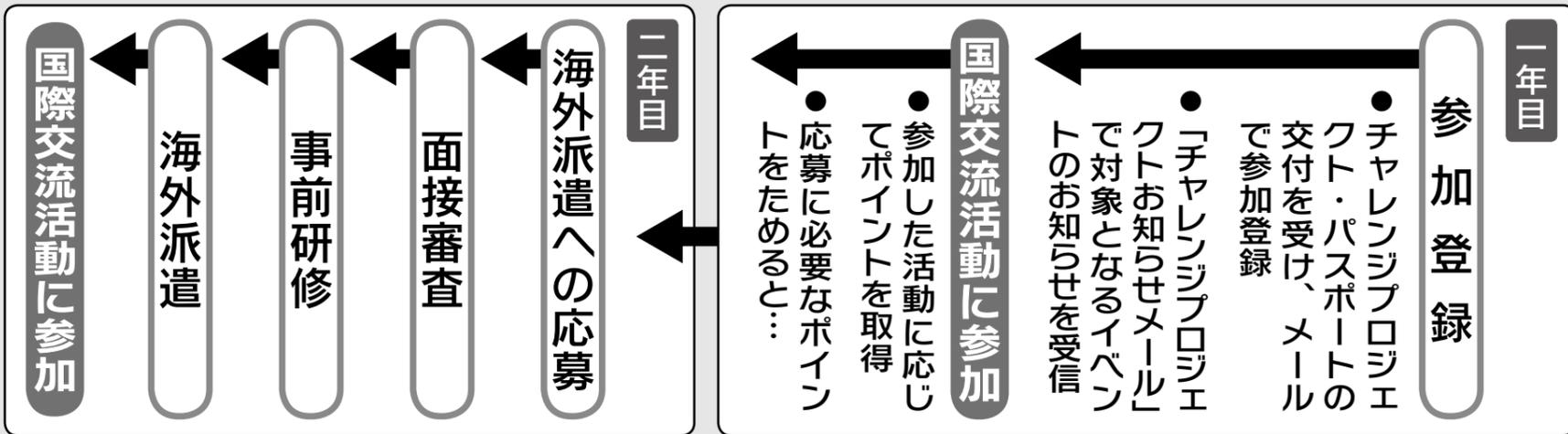


中学生チャレンジプロジェクトとは

プロジェクトに参加できるのは

- ・松山市内の中学校に通う、1年生、2年生
- ・広く世界の国々について興味があり、地域での国際交流活動に参加する意欲のある人

プロジェクトの流れ



★ ポイント対象となる国際交流活動例 ★

地球人まつり

世界各国のブースで文化や料理などを体験できるお祭り



国際交流サロン

市民と外国籍市民とが楽しみながら交流できるイベント



「のぞいてみよう! 国際協力の世界」

国際協力や多文化共生について学べるイベント



ぶどう収穫・交流イベント

姉妹都市フライブルクから贈られたぶどうの収穫を外国籍市民と一緒に体験、楽しく交流します



このほか

まつやま中学生海外派遣報告会

その年の派遣生による報告会

My Matsuyama Family

松山在住の留学生のためのホームビジット&交流プログラム

ホームステイプログラム

ホストファミリーとして、外国人を自宅に受け入れます

etc...

中学生チャレンジプロジェクトへ登録をしたい、詳しく知りたいという方は、まつやま国際交流センターまで

***** まつやま国際交流センターでは、他にも... *****

☆ ボランティアのための語学講座(英語、韓国語、中国語)の受講生などを募集

☆ 外国人オタスケマン(困っている外国籍の人をお助けするボランティア)しています!!

また、国際交流情報が満載のMICメールニュースを週に1回配信しています。配信希望の方は informic@dokidoki.ne.jp までメールを送ってください。

問い合わせ

まつやま国際交流センター (MIC) 〒790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ 1F
TEL: 089-943-2025 FAX: 089-931-2041 E-mail: informic@dokidoki.ne.jp
URL: <http://www.dokidoki.ne.jp/home1/informic/MIC/MICtop.html> まつやま国際交流センター 検索
携帯 URL: <http://www.dokidoki.ne.jp/home1/informic/MIC/mobile/top.html>

